

JANNZURI UWAJIMA

2年1組 松浦 士竜

2年1組 吉村 直城

指導者 川端 恵美

1 課題設定

近年日本で問題になっている少子高齢化問題だが、宇和島市内でも問題視されている。それによって、宇和島市内の人口は年々減少している。市内の人口が減少することによって、過疎化が進み、生活機能を維持することが現状として難しくなっている。

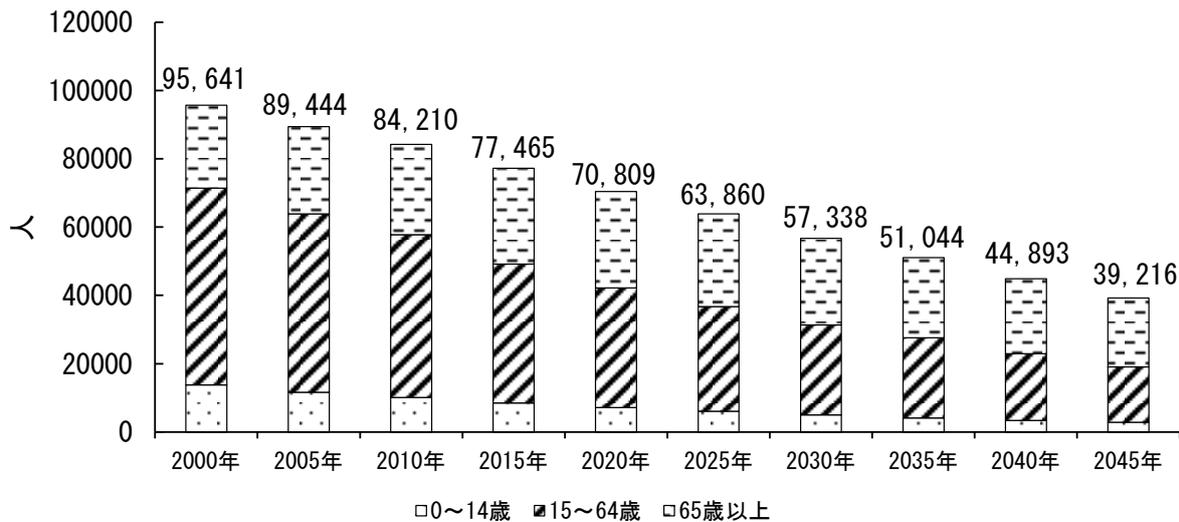


図1 宇和島市の人口推移予想 (Go Freak! 宇和島市の人口推移より作成)

図1から見てとれるように、宇和島市の人口は年々減少している。その中でも依然として年代別に見た高齢者人口は多く、内閣府の情報によると、近年自動車免許を返納する高齢者の割合が多くなっている。

そうなれば、病院や市役所、商業施設に行くための手段が無くなってしまい不便な暮らしになってしまう。

そこで鬼北町内の病院や商業施設を巡回する循環バスと以前宇和島市内を走っていたモーニバスを参考に、基礎疾患を抱えがちな高齢者の通院手段や地域住民の便利な足となる宇和島市専用の循環バスを運行することを想定して順路を作成した。

2 考察

循環バスの運行によって、高齢者が暮らしやすくなるのはもちろん、商業施設への客足も増えるため地域の活性化にもつながると思う。そうなれば、宇和島が人々にとって住みやすい、いつまでも住みたいと思える街になってくると考えた。循環バスは、高齢者の人々にとっては、生活といった面も配慮されており、より一層福祉の充実したまちづくりも目指せるのではないかな。

3 準備

まず、私たちはその宇和島市内を走る循環バスの走行ルートを考えてみた。

- ① 市立病院→天赦園→交流センター→きさいや広場→総合体育館→市役所→恵比寿フジ→バスセンター→パフィオ→宇和島駅→市立病院

② 市立病院→宇和島城→商店街→バスセンター→宇和島駅→パフィオ→市役所→北フジ→レディ薬局→しゃぶしゃぶ温野菜→ケーズ電気→エースワン→ダイキ→市立病院
次に、参考材料として、鬼北町役場に運営の金銭面の問題、人口減少に対する対処法、運行ルートについて聞いた。

4 結果

金銭面に関しては、循環バスは支出が収入を大きく上回るため、運営を長期間維持することが難しいということが分かった。

人口減少に対する対処法は、東京などの首都圏に愛媛への移住を提案するPR活動をし、移住してきた人々には空き家バンクという、住んでいる人のいなくなった空き家を再利用して住んでもらうサービスをしている。就職先も商店街などと連携して、雇用先を提供していることが分かった。

鬼北町を走る循環バスの運行ルートは、町内の病院はすべて網羅しているため病院はもちろん、銀行などの金融機関、フジなどの商業施設といった、高齢者にとって必要不可欠な施設を巡るルートとなっている。

5 まとめと今後の課題

鬼北町の循環バスでは高齢者に寄り添った運行ルートが考えられており、年々増加している高齢化社会への配慮がよくされていると思った。

この循環バスによって鬼北町は高齢者にとって住みやすい町になっているのではないかと思う。

出典

・「Go Freak! 宇和島市の人口推移」

<https://jp.gdfreak.com/public/detail/jp010050000001038203/1>